1. 疾患管理用ペットフードの歴史

疾患管理用ペットフードの基礎知識

はじめに

犬猫の疾患管理用ペットフード「療法食」は、近年さまざまな疾患に対応したフードの登場により、日常診療では治療の一環ともいえるほどの重要な役割を果たしています。
特定の疾患を抱える犬猫にとって、適切な食事管理は症状の緩和やQOL（生活の質）向上に直結します。

本編では、愛玩動物看護師の皆さまが日々の業務で役立てられるよう、疾患管理用ペットフード「療法食」の基礎知識について解説します。

疾病管理用ペットフードの歴史

SAMPLE
※実際の内容と異なる場合があります

疾患管理用ペットフードの歴史は、1940年代、アメリカの獣医師マーク・モーリス博士（Dr. Mark L. Morris Sr.）が慢性腎臓病の犬のための特別なフードをつくり、その後ペットフードメーカー（ヒルズ・ペット・ニュートリション：Hill's Pet Nutrition）が協力し、缶詰の特別食「Prescription Diet K/D（ケーディー）」を商業化したことが先駆けとされています。

日本では、この腎臓病用特別食が1970年代に紹介され、利用が広がり始めたといわれています。
当時、この特別食の一連のシリーズは 'Prescription Diet' と呼ばれており、これを直訳されたのか「処方食」と呼ばれていました。

その後、「ペットフード公正取引協議会」が定めた「ペットフードの表示に関する公正競争規約」によりこれらの特別食は、正式に「療法食」と呼ばれるようになりました。

執筆者

Tsuchida Masahisa
土田 雅久　獣医師 / ペット栄養管理士

一般社団法人どうぶつ予防医療協会 理事
株式会社 PNCS 代表取締役
ペット栄養学会 所属